



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：米国がシリア軍の化学兵器使用を確認

(報道取り纏め)

6月13日、ホワイトハウスのローズ大統領副補佐官は、シリアのアサド政権が反体制派に化学兵器を使用したと米情報機関が結論付けたと発表した。米国は、シリア政府軍が、2012年から4回化学兵器を使用し、100～150人が死亡したとの見方を示した。シリアの化学兵器使用が確認されたとして、オバマ大統領が反体制派への軍事的支援を決断した。

オバマ大統領は、元々シリア反体制派への武器支援に慎重だった。そのこともあってか、米国が、早急、大量に反体制派への武器支援を開始する様子はない。13日の米NYT紙は、ホワイトハウス筋が、米軍兵士をシリアに送る意図はないことを確認し、飛行禁止地域設定は非常に困難であると述べたと報道している。

オバマ大統領は、英・北アイルランドで17～18日に開催されるG8首脳会議などで、軍事面を含む追加支援のあり方を関係国と協議すると報道されている。オバマ大統領は、17日にロシアのプーチン大統領とも会談する予定である。

米国が、シリア軍が化学兵器を使用したと判断したことについて、シリア側は、反体制派への武器支援を正当化するための安っぽい策略だと非難した。ロシア側は、米国の認定に疑問を呈している。仏国は5月27日に、英国は6月4日に、シリア軍の化学兵器使用を確認できたとしていた。

6月15日、米国防省は、ヨルダンの要請により、同国に派遣されているF-16とパトリオット・ミサイルの駐留期間の延長をヘーゲル国防長官が承認したと発表した。ヨルダンでの多国籍軍の演習「Eager Lion 2013」は、6月9日から20日までの予定で開始されている。F-16とパトリオット・ミサイルは同演習のためにすでにヨルダンに到着しており、演習前から、演習後に配備を継続すると報道されていた。同演習には、アラブ諸国を含む19カ国から1万5000人、米軍兵士は4500人が参加している。